

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

努力目標

◎信仰的学びの機会を増やす。

◎地域との交流促進。

◎神戸昇天教会リーフレットの作成。

聖語 喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい。(ロマ12:15)

実りの季節にあたり

～実によって木を知る～

「悪い実を結ぶ良い木はなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。木は、それぞれ、その結ぶ実によって分かる。」(ルカによる福音書6:43-44)

司祭 ミカエル 小南 晃

秋は実りの時、収穫の季節です。既に田圃の刈り入れが始まっていますが、秋の実りは穀物だけではなく、リンゴや梨、柿や栗といった木の実も、収穫の時を迎えています。

旧約聖書に記されている秋の収穫祭は、「仮庵の祭り(レビ記23:34-43)」と呼ばれるもので、穀物と共にブドウや果物といった果実の収穫を祝う祭りだそうです。

聖書では第7の月となっていますが、太陽暦では丁度9月～10月のこの時期に行われます。

この祭りでは、家の庭やベランダに仮庵(仮小屋)を立てて、家族がそろって1週間そこで過ごすという、何とも楽しそうな祭りですが、そのことによって、イスラエルの先祖がエジプトを脱出した後、40年間、荒野で仮庵や天幕で過ごしたことを想起するものです。

木とその実

新約聖書には、木とその実や果実を譬えとして用いた教えが、しばしば出て参ります。

「斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。(マタイ3:10)」という洗礼者ヨハネの厳しい言葉があります。

そしてこの言葉の背後にあるのは、

「悔い改めにふさわしい実を結べ。(マタイ3:8)」という彼の教えです。

ここで「実」に譬えられているのは、悔い改めの具体的な結果です。それが「実」として譬えるのは、本当に悔い改めたならば、自ずとふさわしい「実」を結んで行くことになるからでしょう。

私たちは、その「実」によって、本当に悔い改めて、信仰と喜びと愛に生きているのか、それともそうではないかが現れてくる。それが「木は、それぞれ、その実で分かる」と言う言葉であります。

「実」としての良き言葉

悔い改めにふさわしい「実」としての行動や生活は色々あるでしょうが、冒頭の聖句は、後に「善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。人の口は、心からあふれ出ることを語るのである。(ルカ3:45-46)」という言葉が続きます。殊に人が語る「言葉」を、そうした「実」の一つとして譬えています。

しばしば「あの人は口は悪いけど、心はさっぱりと、竹を割ったような人だ」と言った表現をします。しかし口が悪いという言い方

をしています。この場合は、お世辞など言わない、率直な語り口のことを言っているのではないのでしょうか？決して毒舌を称賛しているわけではない筈です。

言葉と言うものは、人を励ましもし、また傷つけもします。人を傷つける言葉や悪口、また憎悪、うらみ、妬みに満ちた言葉が口から出て来るとき、それがその人の心から溢れ出る、その人自身の「実」であり、その実からその人が神の御前での在り様も分るといことなのです。

自分を吟味する譬えとして

しかしこれは、他人が良い木か悪い木かを判断し、裁く基準としてではなく、私は、今、良い言葉を語り、良い実を結ぶ木となっているかどうかと、自分自身を吟味するための基準とするべきです。

もし自分の口から、人を嘲る言葉や、敵意や妬みに満ちた言葉が溢れ出てくることに気付いたなら、一体、私の心はどうなっているのかを振り返り、自分自身が主から愛され、赦されている身であることを思い起こし、語る言葉を改めることに努めるべきです。そしてそれを続ける時には、何時しか、善い実を結ぶ木となっているのではないのでしょうか。

私たちが、この実りの季節に、共に、さらに良き「実」を結ぶ木として、人々を愛し、励まし、喜びを与える言葉を語れるように、祈り務めたいと思います。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)